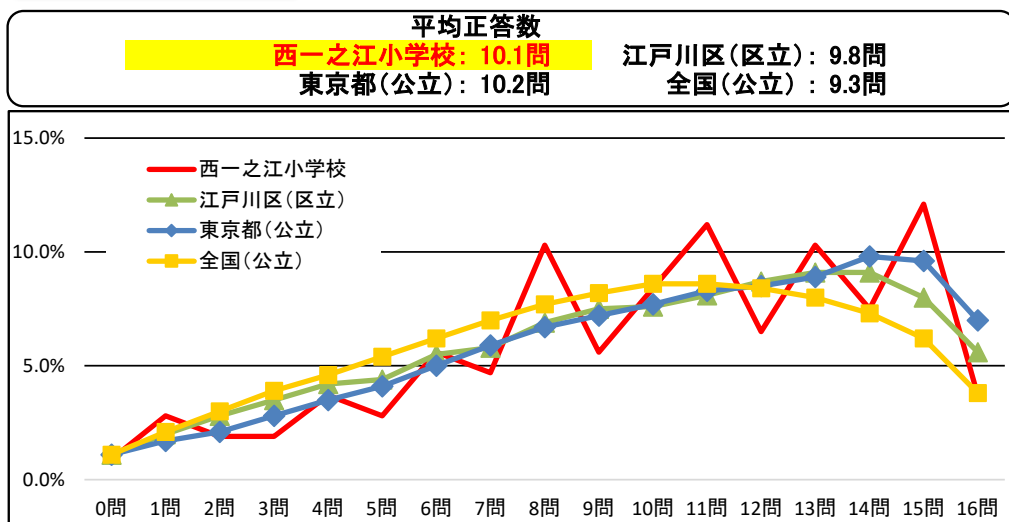


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】西一之江小学校

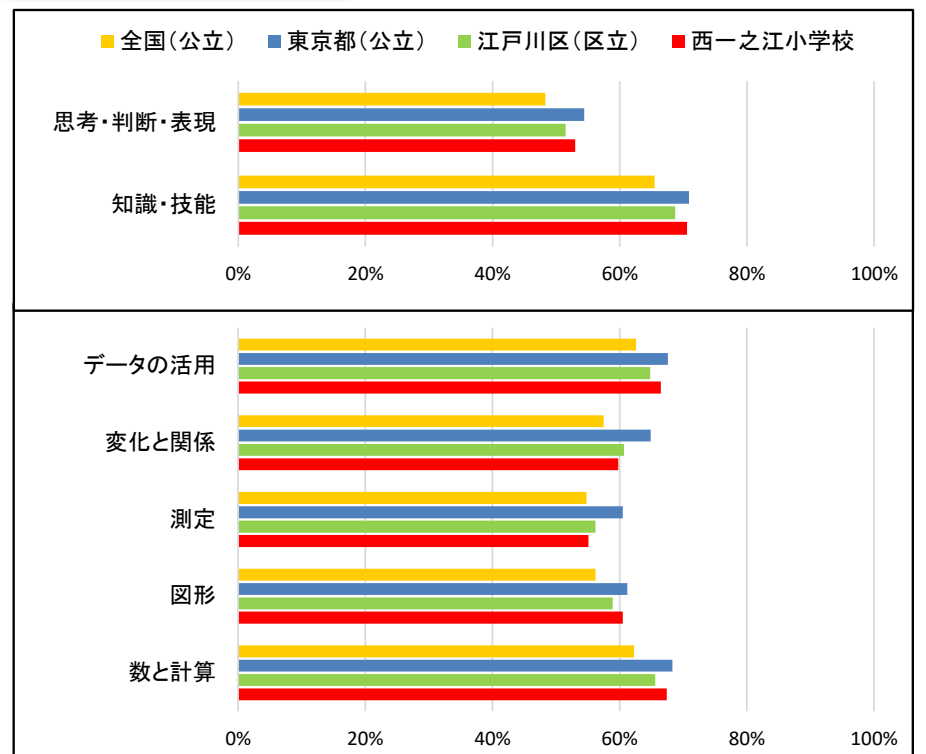
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

西一之江小学校	63%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-1.0

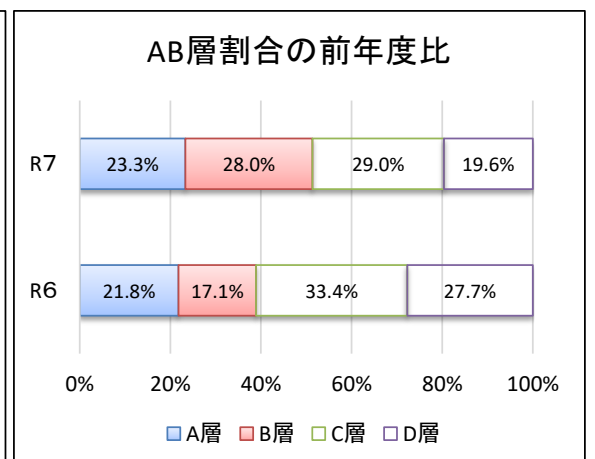
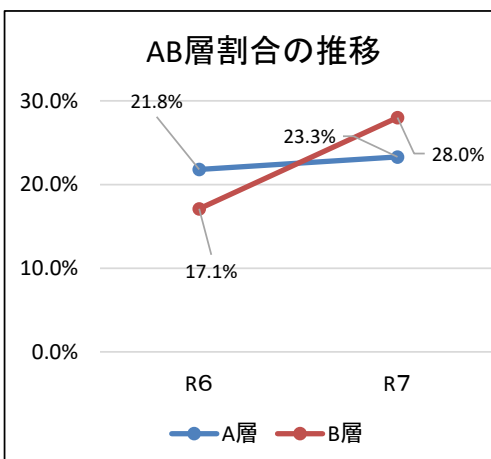
「領域別」の結果



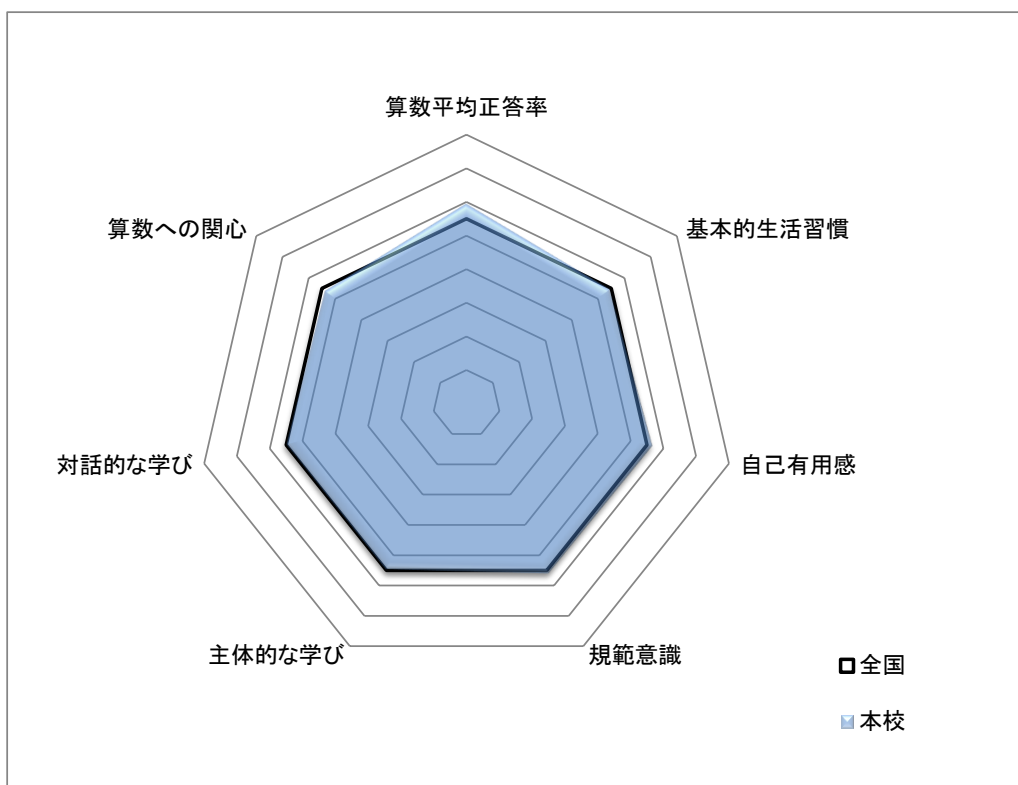
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

算 数	上位 ← 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
西一之江小学校	23.3%	28.0%	29.0%	19.6%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

○ほとんどの項目において、全国平均とほぼ同様である。普段から全教科において基礎的、基本的な学習活動を繰り返し行っている成果であると考えられる。
 ○平均正答率については、全国平均値を5ポイント上回ることができた。

《家庭・地域への働きかけ》

○テストの見直しや再テストなどを随時行い、再テストの結果の分析をまとめさせて結果を家庭に伝えている。
 ○算数科も含め、それ以外の教科でも基礎・基本や活用の学習をすすんで行えるように、保護者会や個人面談で声掛けする。

《現状把握》

○AB層の割合は前年度に比べ、12%以上向上した。基礎的な内容の反復や、習熟度に合わせた授業展開によるものと考えられる。
 ○学習習慣が身に付いていない児童も少なくないため、基礎的な学力の定着には以前として課題がある。
 ○知識・技能は東京都平均との差は大きくないが、思考・判断・表現は下回っている。必要十分に知識・技能を生かして表現する力をさらに伸ばす必要がある。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

○区の算数科スタンダードを参考にし、教師が「児童にとって主体的・対話的で深い学び」のある授業展開になるように工夫する。
 ○主体的な学び・対話的な学びなど学びに向かう力は教科への関心に比べて高いことから、児童の学習への期待感を損なわずに、教科の学習へとつなげる視点で授業改善を行うことが課題であるので、学年で協力しながら教材研究をしていく。

・基礎学力の保障

○週2回の朝学習の時間等に、各学年の実態に合った計算練習等を繰り返し行い、少しずつ基礎学力を高められるようにしている。
 ○毎日基礎的・基本的な問題の家庭学習を行い、その結果から教師が定着度を確認する。その後一人一人に合った声掛けをしたり、課題を出したりすることを繰り返し行う。

・学習習慣の確立

○学習の基礎基本が定着できるように計算スキルやドリルパークなどで繰り返し演習を行い習得率が上がるようにしている。
 ○必要な児童に、EDOスク教室で個別的に指導を毎週行っている。

・AB層の育成

○自分の考えを他者に伝えられるように図や表を用いてわかりやすく説明させている。
 ○「主体的・対話的で深い学び」のある授業展開になるように工夫する。問題を解決するときに、自分の考えを随時発表ボード(B4の大きさのホワイトボード)にすすんでまとめ、書いた児童から友達同士伝え合い、最後に考えを共有できるようにする。